【別冊資料】

豊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る アンケート調査

調査結果報告書

平成27年8月 豊川市

目 次

I. 調3	<u> </u>	1
1.	調査の目的	1
2.	調査対象及び調査方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
3.	調査票の回収状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
4.	標本誤差	2
5.	報告書の見方	2
II. 調	査のまとめ	3
1. ,	人口の移動と住みやすさ・暮らしやすさ	3
	就労・雇用に関する若者の希望と事業所の意向	
3.	事業所の現状把握と市の産業振興策	4
4. i	結婚に関する意識調査について	5
5.	出産に関する意識調査について	6
6. ·	子育てに関する意識調査について	7
III. į	調査結果	8
1	- 人口の移動と住みやすさ・暮らしやすさ	8
1	若者世代の人口移動状況	
2	暮らしやすさ、住みやすさ	9
2. :	就労・雇用に関する若者の希望と事業所の意向	11
1	事業所の景況感	11
2	雇用の動向・若者の雇用	12
3	若者の就労に対する方針・希望・支援	15
4	就労就職支援と採用	18
5	所得の満足度	19
3.	事業所の現状把握と市の産業振興策	20
1	事業継承の課題	20
2	新分野・新業務への取り組み意向	21
3	事業所の新設・移転	
4	産業振興策・支援について	
4. i	結婚に関する意識調査について	
1	結婚に関する現状と希望	
2	独身でいる理由・結婚を決めた理由	
3	結婚に対して感じた不安	
4	結婚に関する考え方について	
	出産に関する意識調査について	
1	出産に関する現状と理想	
	♪ ○ ひで1寸 ノ∨ノ(└個型サコンよど田 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	JJ

	3	安心して妊娠・出産できるまち	34
	4	少子化対策施策	35
6.	子	子育てに関する意識調査について	37
	1	子育てをしてよかったことや喜び	37
:	2	安心の子育て環境	37
	3	子育ての悩みの相談等	38
	4	子育ての支援策	39
7.	7	その他・属性	40
	1	地方創生の評価について	40
:	2	属性(若者調査)	40
	3	属性(事業所調査)	42

. 調査概要

1. 調査の目的

本調査は、地域の特性を考慮した人口減少対策や地方創生の施策を盛り込んだ「豊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定に向け、若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶えるための就労や居住に関する現状・考え方や、産業振興策への要望や市内事業所の雇用等に関する現状と課題を把握し、市として必要な対策と方向性を検討するための基礎資料とするものです。また、5年後のKPI・数値目標値を検討する際の参考資料としても扱います。

2. 調査対象及び調査方法

- ①調査地域
 - 豊川市内
- ②調査対象者及び数
 - (1) 豊川市在住の16歳から40歳までの市民の男女:2,000人(男1,030人、女970人)
 - (2) 豊川市内の従業員5人以上の事業所:200事業所
- ③標本抽出方法
 - (1)無作為抽出
 - (2) 系統抽出法(※100人以上の事業所を抽出した上で、それ以外の事業所を等間隔抽出)
- ④調査期間
 - ・平成27年5月25日から平成27年6月12日まで
- ⑤調査方法
 - · 郵送配布、郵送回収
- ⑥調査実施機関
 - ・豊川市

3. 調査票の回収状況

	若者 [※] 調査	事業所調査				
標本数(名)	2,000 (100.0%)	200 (100.0%)				
回収数 (率)	655 (32.8%)	94 (47.0%)				
有効回収数 (率)	655 (32.8%)	94 (47.0%)				

^{※16}歳から40歳。

4. 標本誤差

この調査は、母集団である市内在住の16歳から40歳までの市民から一部の標本を無作為に抽出して行いました。この調査結果からもとの全体の値を推定する標本調査です。この"標本調査の結果"と"実際の全体の割合"との差が標本誤差です。今回の調査では下記の式で標本誤差を求めることができます。

標本誤差
$$\sigma=\pm2\sqrt{\frac{P(100-P)}{n}}$$
 P: 回答率(%) n: 有効回収数(件)

以下の表は、上式にnとPの値を代入して標本誤差を求め、作成したものです。

有効	標本										
回収数 (件)	本調 誤査	5% (95%)	10% (90%)	15% (85%)	20% (80%)	25% (75%)	30% (70%)	35% (65%)	40% (60%)	45% (55%)	50% (50%)
655	差の	1. 7	2. 3		3. 1	3. 4		3. 7	3.8	3. 9	3.9

この表の見方について例をあげると、「回収数が655人であり、ある設問の1つの選択肢の回答率が50%であった場合、全数調査との誤差の範囲は95%の確率で ± 3.9 %以内であり、実際の母集団における比率は46.1% ~ 53.9 %の範囲にある」と意味づけられるものです。

5. 報告書の見方

- ・グラフ・表中の「n」はアンケートの有効回収数を示しています。
- ・比率はすべて百分率(%)で表し、小数点第2位を四捨五入して算出しています。したがって、合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答の場合、回答の合計比率が100.0%を超える場合があります。
- ・選択肢の文章を簡略化してある場合があります。
- ・集計表内の太字の数値は、最も大きい数値、網掛けセル内の数値は、比較して差があるもの(特 徴のあるもの)であることを表しています。

Ⅱ. 調査のまとめ

1. 人口の移動と住みやすさ・暮らしやすさ

- ○若い世代のUターン、Iターンの状況は、53.6%となっており、半数以上が豊川市への転入を経験しています。
- ○勤め先(通学先)は、豊川市内が47.0%で、豊川市外が35.1%となっています。また、豊川市外の中では、豊橋市への移動が12.4%と最も多くなっています。
- ○「暮らしやすい」、「どちらかといえば暮らしやすい」と 78.6%が回答しています。
- ○「住み続けたい」、「当分住み続けたい」と 75.4%が回答しています。
- ○若者が定着するために求められる施策は、「市内での働く場の確保」と「子育てに対する支援」 が約4割となっており、市内雇用と子育て支援の充実が求められています。
- ○市内で働く場の確保については、「Iターン」と「住み続けたくない」と回答した方が比較的必要と答えています。
- ○子育てに対する支援は、「I ターン」と「住み続けたい」と回答した方が比較的必要と答えています。また、年齢が高いほど必要と考えている割合が高くなっています。
- ○公共交通機関の充実については、年齢が低いほど必要と考えている割合が高くなっています。

●検討の視点

- ①Uターン・Iターンが5割以上となっている結果を踏まえ、転入者に対しての支援を検討する。
- ②若者は市内で働く場を求めているため、現在市内で働く(学ぶ)割合を47.0%より上昇させる。
- ③『暮らしやすい』『住み続けたい』の割合を4分の3以上より上昇させる。
- ④取り組みとして市内雇用と子育て支援の希望が高いため、重点的に検討する。

2. 就労・雇用に関する若者の希望と事業所の意向

- ○景況感は、「変わらない」の割合が高くなっています。
- ○就労していないと回答した中で、約8割が就労を予定・検討していると答えています。
- ○雇用については、「増やす」、「維持」と回答した事業所が90.4%となっています。
- ○「正規社員のみを増やす」と回答した事業所が 42.4%となっています。また、就労を予定・検 討していると回答した中で 46.2%が「正規社員として就労したい」と答えています。
- ○「正規社員として就労したい」については、男性(92.5%)が女性(30.8%)の3倍となっており、年齢別では、若い年齢ほど高くなる傾向がみられます。
- ○正規社員への登用については、「定期的」、「随時」と回答した事業所は、26.6%となっています。 また、非正規社員として就労しており、今後正規社員として就労したいと回答した割合は、 11.2%となっています。
- ○女性の管理職・役員の登用については、男性管理職・役員のみの事業所においても、半数以上 が「積極的に」、「どちらかというと登用していく」と回答しています。

- ○雇用する際の人材は、「中途採用」が最も多く、次いで「新卒」となっています。
- ○就労の支援や方針について、「若者」が「仕事と家庭の両立」や「労働時間の短縮・有給休暇の 積極的な取得奨励」を求めているのに対して、「事業所」は、「本人の能力・適性にあった配置」 や「教育訓練の実施・援助」を検討している結果となっています。
- ○全国調査(「平成25年若年者雇用実態調査(事業所調査)」厚生労働省)と事業所を比較すると、「配転・勤務地等人事面での配慮」が10.8ポイント低くなっています。
- ○若年労働者の支援については、新規学卒者においては、「学校などでの職業教育、職業観教育」 や「インターンシップへの援助」が多くなっており、中途採用者においては、「求人・求職情報 の充実、提供」や「トライアル雇用※・助成金等の拡充」が多くなっています。
- ○就職活動の情報収集先は、「公共職業安定所」が最も高く、次いで「就職情報誌・新聞の求人広告・チラシ」、「インターネットや携帯電話の就職情報サイト」となっています。
- ○相談先の認知度については、「公共職業安定所」を『知っている』(よく知っている、どちらかというと知っているの合計)が67.8%と最も多くなっている一方で、他の相談支援の認知度は、5%を切る結果となっています。

※トライアル雇用:求職者を正式に採用する前に、一定期間、試行的に雇用すること。

●検討の視点

- ①事業所の正規社員雇用意向と若者の正規社員雇用の希望のかい離を減らしていく。
- ②女性の社会進出を進めるとともに、希望した雇用形態で働ける環境づくりを行う。
- ③若者の希望(ワークライフバランス)と事業所の意向とのかい離について検討する。
- ④若者の仕事をしやすい環境をつくるため、(各機関の)就職前の支援と内容を整理する。
- ⑤若年労働者の就労相談の認知度向上と、企業と若者をつなげる支援を強化する。

3. 事業所の現状把握と市の産業振興策

- ○事業継承については、全体として42.6%が「課題がある」と回答しています。また、人数規模が少ない事業所ほど、「課題がある」との回答した割合が低くなっています。
- ○事業継承の課題は、「後継者を教育すること」と「後継者の候補を確保すること」との回答が多くなっています。
- ○新分野、新業務への取り組みは、「100人以下の事業所」が「101人以上の事業所」より意向が高くなっています。
- ○重要視している新分野は、「製造」、「環境・リサイクル」、「建設」、「生活・関連サービス娯楽」、「医療・福祉」が高くなっています。
- ○新分野へ取り組まない理由については、「人的余裕がない」が最も多くなっています。また、「100人以下の事業所」は「101人以上の事業所」より課題を感じている割合が高くなっており、特に「企画立案のノウハウがない」については、「101人以上の事業所」より28.1ポイント高くなっています。
- ○事業所の新設意向については約15.0%、移転意向については約12.0%となっています。
- ○新設と移転の希望場所は、豊川市内が約6割以上となっており、未定が約3割となっています。

- ○工業と商業振興事業の支援希望は、「企業再投資促進事業」が約4割となっています。
- ○産業振興の行政機関・支援機関への期待は、「豊川の地域ブランドの構築」が43.6%と最も多く、 次いで「豊川市全体の技術力の向上の促進」が31.9%となっています。
- ○事業活動支援に関して行政に望む支援策は、「雇用助成」が38.3%と最も多く、次いで「人材育成」が28.7%となっています。

●検討の視点

- ①事業継承の課題である「後継者」に関する支援や制度を検討する。
- ②新分野・新産業について、取り組む意向が高いが課題が多いと感じている「100人以下」の事業所に対しての支援や制度を検討する。
- ③事業所の新設・移転の希望場所について、「未定」の事業所に対して、「豊川市内」を選択する 環境・制度を整備する。
- ④産業振興策として、「豊川のブランド化」を目指していく。

4. 結婚に関する意識調査について

- ○現在独身で、今後結婚したいと答えた割合は、男女ともに6割以上となっています。
- ○結婚の希望は、16歳~30歳までは7割以上となっていますが、31歳から40歳では、5割以下となっています。
- ○独身でいる理由は、「結婚したいと思える相手と出会っていないから」が最も多くなっています。
- ○結婚した後の生活費に不安との回答は、男性が女性より20.3ポイント高くなっています。
- ○結婚を決めた理由は、「一緒にいて楽しい、気を遣わない」と「タイミングがあったので」が多くなっています。また、「自分の年齢を考えて」は、女性が男性より12.3ポイント高く、「相手の年齢を考えて」は、「男性」が「女性」より24.1ポイント高くなっています。
- ○結婚に対する不安については、「出産や子育て」、「家族・親戚との付き合い」、「家事と仕事の両立」、「結婚後の生活費」が高くなっています。また、「家事と仕事の両立」は28.2ポイント、「相手の家族・親戚との付き合い」は20.1ポイント、「女性」が「男性」より高くなっています。
- ○学生の約3分の1が「結婚相手となる異性と出会う機会がない」ことについて不安と回答して います。
- ○「仕事がしづらくなる/仕事をやめなければならなくなる」との考え方に対して、『そう思わない』(そう思わない、どちらかといえばそう思わないの合計)と回答した割合は、「男性」が「女性」より39.2ポイント高くなっています。

●検討の視点

- ①出会いの場、機会を増やすための環境や時間を創出、支援する取り組みを検討する。
- ②女性が感じる結婚に対する不安を改善する。
- ③社会進出を希望する女性が、結婚後も仕事を継続しやすいと思う割合を増加させる。

5. 出産に関する意識調査について

- ○希望する子どもの人数(最終的に持つつもりの子どもの人数)は、「2人」が53.4%、「3人」が20.0%となっています。
- ○理想的な子どもの人数は、「2人」が46.1%、「3人」が37.4%となっています。
- ○希望子ども数は平均1.93人、理想子ども数は平均2.41人となっています。
- ○希望子ども数と理想子ども数ともに、女性が男性より多くなっています。
- ○子どもを持つのに消極的な理由は、「子育てには何かとお金がかかるから」が最も多くなっています。また、この傾向は、子どもの人数が増えるほど(2人まで)高くなっています。
- ○消極的な理由を性別でみると、「これ以上は(育児に対する)心と体の負担が大きいから」については、女性が男性より14.0ポイント高くなっています。
- ○子どもを持ちたくない理由は、「結婚するつもりがない」を除いて、「出産費用、子育てや子ど もの教育等にお金がかかるから」が最も多くなっています。
- ○安心して妊娠・出産できる市だと思うかについては、3分の1以上が『そう思う』(そう思う、ややそう思うの合計)と回答しています。また全国調査(平成25年度「少子化社会対策大綱の見直しに向けた意識調査」内閣府)より『そう思う』の割合が高い傾向にあります。
- ○重要だと思う少子化対策施策としては、「子育てと仕事が両立できる職場環境整備」が最も多くなっています。また、性別でみると、「子育てと仕事が両立できる職場環境整備」については、女性が男性より19.6ポイント高くなっています。
- ○少子化対策施策としての「若者や失業者への就労支援」への希望は、年齢が若いほど高くなる傾向にあります。また、『暮らしにくい』と回答した人の中で、「保育サービスの充実」を求める声が約6割となっています。

●検討の視点

- ①3人以上の子どもを持った家庭への子育て支援策を検討する。
- ②希望子ども数1.93人からの増加と、希望子ども数と理想子ども数の差の解消を目指す。
- ③子育て費用の支援の検討と費用負担を減らす環境の整備を行う。
- ④安心して妊娠・出産できる市だと思う人の割合を37.2%より上昇させる。

6. 子育てに関する意識調査について

- ○子育てをしてよかったこと・喜びについては、「子どもの成長が喜びである」が最も多くなって います。
- ○安心して子育てができたか(できているか)については、『安心』(安心してできている、どちらかというと安心してできているの合計)と『不安』(安心してできていない、どちらかというと安心してできていないの合計)を比較すると、『安心』が『不安』より62.5ポイント高くなっています。
- ○子育ての悩み相談等のためにあるとよいものとしては、「家族、配偶者の協力」が最も多く、「子育て支援センターの専門職による子育て相談支援」、「学校や認定こども園等の先生による相談支援」、「近所の方の協力」が3割以上となっています。また、「地域の育児サロン」は、21歳~30歳で31.4%となっています。
- ○市に求める子育て支援策としては、「子育て費用の軽減、支援」が最も多く、次いで「子育てと 仕事の両立できる仕組みづくり」が多くなっています。また、「子どもと遊べる場所の確保」に ついては、年齢が高くなるほど増加する傾向にあります。

●検討の視点

- ①『安心』して子育てができていると感じる割合を増やす。
- ②子育ての悩み相談支援機関等の強化と支援内容を整理する。
- ③子育て支援策の内容を検討する。

Ⅲ. 調査結果

1. 人口の移動と住みやすさ・暮らしやすさ

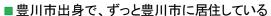
1 若者世代の人口移動状況

(1) 豊川市におけるUターン、Iターン(転出入)の状況(若者:問9)

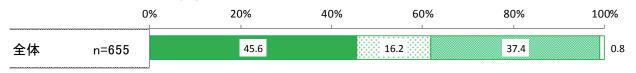
◆ Uターン・Iターン(転出入)の割合は、53.6%

Uターン(豊川市出身で、他市町村に転出したことがあるが、現在は豊川市に居住している)と I ターン(他市町村出身で、現在豊川市に居住している)の割合が53.6%となっており、半数以上が転入(再転入)している状況となっています。また、「豊川市出身で、ずっと居住している」割合は45.6%となっています。

図表 1 【 Uターン・ I ターン (転出入) の状況】



- □豊川市出身で、他市町村に転出したことがあるが、現在は豊川市に居住している
- ■他市町村出身で、現在は豊川市に居住している
- □無回答



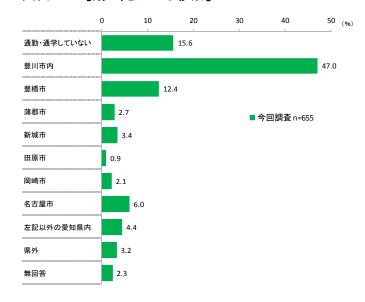
(2) 勤め先による移動状況(若者:問5)

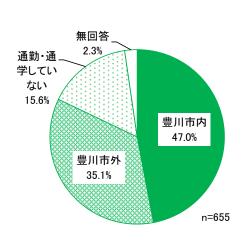
◆ 勤め先による移動状況は、豊川市内47.0%、豊川市外35.1%

勤め先による移動状況は、「豊川市」が47.0%、「豊川市外」が35.1%となっており、豊川市外で働いている人が3割以上となっています。また、豊川市外の勤め先としては、「豊橋市」が12.4%と最も多く、次いで「名古屋市」が6.0%となっています。

※「通勤・通学していない」(15.6%)も割合に含まれています。

図表 2 【勤め先による移動】





2 暮らしやすさ、住みやすさ

(1) 豊川市は暮らしやすいか(若者:問37)

◆ 『暮らしやすい』(暮らしやすい、どちらかといえば暮らしやすいの合計)が78.6%

『暮らしやすい』(暮らしやすい、どちらかといえば暮らしやすいの合計)の割合は78.6%(全体の4分の3以上)となっており、『暮らしにくい』(暮らしにくい、どちらかといえば暮らしにくいの合計)の割合が7.1%、「どちらともいえない」が13.7%となっています。また、「Iターン」において『暮らしやすい』と回答した割合が「ずっと豊川市に居住している」、「Uターン」と比較すると低くなっています。

■暮らしやすい ☑ どちらかといえば暮らしやすい ∞どちらともいえない ■ どちらかといえば暮らしにくい □暮らしにくい □無回答 0% 20% 40% 60% 80% 100% 5.0 全体 n=655 33.1 45.5 13.7 0.5 ずっと豊川市に n=299 12.0 2.0 41.1 43.1 0.3 居住している 1.3 Uターン n=106 41.5 42.5 10.4 3.8

49.8

17.6

9.0 3.3 0.4

図表 3 【暮らしやすさについて(全体・転出入別)】

(2) 豊川市に今後も住み続けたいか(若者:問38)

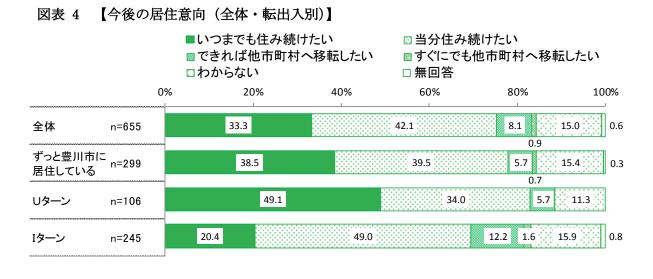
n=245

Iターン

20.0

◆ 『住み続けたい』(いつまでも住み続けたい、当分住み続けたいの合計)が75.4%

『住み続けたい』(いつまでも住み続けたい、当分住み続けたいの合計)の割合は75.4%(全体の4分の3以上)となっており、『移転したい』(できれば他市町村へ移転したい、すぐにでも他市町村へ移転したいの合計)の割合が9.0%、「どちらともいえない」が15.0%となっています。また、「Iターン」において『住み続けたい』と回答した割合が「ずっと豊川市に居住している」、「Uターン」と比較すると低くなっています。



9

(3) 若い世代が定着するために必要と考える施策(若者:問39)(複数回答)

◆ 若者定着のために求められる施策は、「働く場の確保」と「子育でに対する支援」

若い世代が豊川市に定着していくために必要と考える施策は、「市内での働く場の確保」が39.5% と最も多く、次いで「子育てに対する支援」が39.1%、「住宅取得に対する経済的支援」が26.3%となっています。

性別でみると、「商業活性化などまちのにぎわいの創出」については、男性が女性より9.0ポイント高く、「子育てに対する支援」では、女性が男性より17.6ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「公共交通機関の充実」を求める割合が「16歳~20歳」で最も高くなっており、「子育てに対する支援」については「31歳~40歳」で最も高くなっています。

転出入別でみると、Iターン者が必要と考える施策は、「子育てに対する支援」と「市内での働く場の確保」が多くなっており、ともに4割を超える結果となっています。

居住意向別でみると、『住み続けたくない』と回答した方の必要と考える施策は、「市内で働く場の確保」が50.8%で最も多く、次いで「商業活性化などまちのにぎわいの創出」と「公共交通機関の充実」がそれぞれ32.2%となっています。

図表 5 若い世代定着のために必要と考える施策【(全体・性別・年齢・転出入・居住意向別)】

(%) 供む、場 共 術 Ш に 回 宅 援内 勤 犯 光 育 婚 産 療 の 取 市 に 活 交 ത に に ゃ 市 他 な 答 得に 通 物所 雇の 対する 体 町 첫 防 性 交 文 に 充実 対 福 ത . 対 す パする 件の 情確 化 流 化 用働 す 災 機 补 Р で る へなど の など 関 の 対 の R n 情 支援 す 報 保 支 ၈ 報場 経 の 充 振 る 充実 · メ情 ー報 **の** ∼ のの 安 ま 支援 る経済的 提分 提確 用場 的 全 ち 供譲 の 供保 情の ジ発 1 な地 報確 援 安 ア信 ど企 ぎ ど開 支 の保 心 〜 発 助援 提 助 の ゎ プ 充 供 ± 致 な の の 地 情 起 2.0 39.1 15.0 **26.3 39.5** 全 体 655 136 9.3 21.8 25.3 20.0 5.3 7.5 4.4 14.4 24.7 6.6 2 1 1.1 0.3 男性 270 15.6 29.6 39.6 13.0 11.9 20.0 30.0 23.7 5.9 1.9 28.9 6.3 8.1 9.6 20.0 7.4 1.5 女性 376 14.4 24.2 39.6 14.1 7.2 23.4 21.0 17.3 4.8 2.1 8.5 1.6 17.8 28.5 5.6 0.8 0.3 16歳~20歳 16.3 20.9 15.1 16.3 23.3 25.6 11.6 24.4 7.0 3.5 17.4 5.8 3.5 86 47.7 14.0 4.7 5.8 21歳~30歳 213 16.4 30.5 15.5 10.3 23.9 23.9 7.5 1.4 30.0 6.1 6.1 17.8 24.4 5.2 2.3 32.9 19.2 2.3 31歳~40歳 8.5 0.6 353 13.9 25.2 41.6 12.2 6.8 25.5 26.3 16.1 2.5 1.7 48.4 3.4 14.4 26.6 7.6 1.7 0.6 ずっと豊川市に住んでいる 299 16.4 28.8 37.8 16.1 10.7 21.1 22.4 20.1 7.4 2.3 35.5 7.0 5.4 11.0 25.4 5.7 1.3 1.0 0.3 17.0 12.3 11.3 25.5 4.7 2.8 6.6 7.5 17.9 19.8 8.5 4.7 0.9 106 23.6 40.6 20.8 26.4 30.2 245 12.7 24.9 10.6 6.9 28.6 18.0 3.3 1.2 46.9 8.6 2.0 25.7 『住み続けたい』 494 16.2 26.5 37.7 14.0 8.5 22.7 25.7 19.4 5.5 2.0 40.9 6.3 4.7 14.6 24.7 7.7 0.8 『住み続けたくない』 13.6 32.2 1.7 15.3 59 10.2 20.3 50.8 20.3 15.3 8.5 22.0 1.7 11.9 16.9 1.7 1.7

18.4

153

31

2.0 40.8

9.2

5.1 15.3

29.6

31

20

2.0

わからない

98 12.2

296

42.9

12.2

7.1 22.4

2. 就労・雇用に関する若者の希望と事業所の意向

1 事業所の景況感

- (1)事業所の景況感(事業所:問23、問24)
- ◆ 景況感「良くなった」は「現在を1年前と比べると」27.7%、「現在を1年後と比べ ると」21.3%

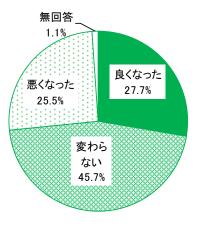
景況感(現在を1年前と比べると)について、豊川市内の事業所では、「良くなった」が27.7%、「悪くなった」が25.5%となっており、それぞれ約4分の1となっています。

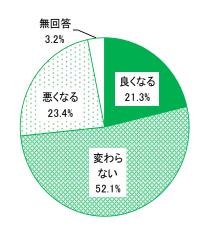
景況感 (1年後を現在と比べると) については、「良くなる」が21.3%、「悪くなる」が23.4%となっており、「悪くなる」との回答が「良くなる」より高くなっています。

図表 6 【景況感(現在と1年前、1年後と現在)】

景況感(現在を1年前と比べると)

景況感(1年後を現在と比べると)





n = 94 n = 94

2 雇用の動向・若者の雇用

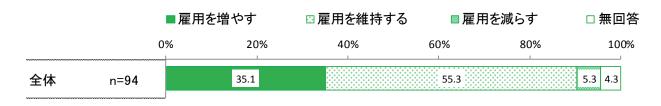
(1) 事業所の雇用計画について(事業所:問5、問6)

◆ 「雇用を増やす」35.1%、「正規社員のみを増やす」42.4%

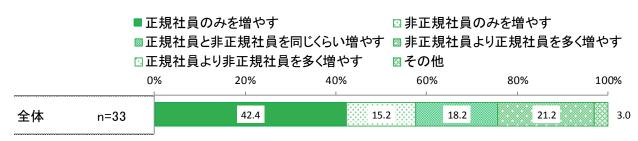
雇用計画については、「雇用を増やす」が35.1%、「雇用を維持する」が55.3%、「雇用を減らす」が5.3%となっています。「雇用を増やす」が「雇用を減らす」より高くなっています。

増やしていく雇用形態については、「正規社員のみを増やす」が42.4%と最も高く、次いで「非正規社員より正規社員を多く増やす」が21.2%となっています。

図表 7 【今後の雇用計画の意向】



図表 8 【増やしていく雇用形態】



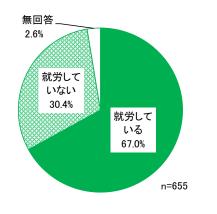
(2) 就労の状況、就労の希望(若者:問28、問31)

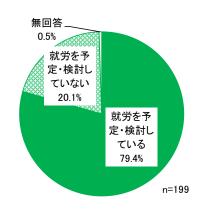
◆ 「就労している」67.0%、「就労を予定・検討している」79.4%

若者の就労状況については、「就労している」が67.0%、「就労していない」が30.4%となっています。

現在就労していない方で、「就労を予定・検討している」と回答した割合は、約8割となっています。

図表 9 【就労の状況、就労の希望】





(3) 就労形態の希望(若者:問29、問32)

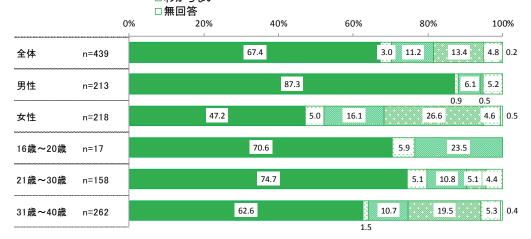
◆ 就労形態希望、(現在就労者)「正規社員として就労しており、今後も正規社員として就労したい」67.4%、(就労希望者)「正規社員として就労したい」46.2%

現在就労している人の就労形態希望は、「正規社員から正規社員へ」が最も多く、次いで「非正規社員から非正規社員へ」、「非正規社員から正規社員へ」となっています。

性別でみると、「女性」より「男性」が「正規社員」での就労形態の希望が高くなっています。 年齢別でみると、若い世代ほど、「正規社員」での就労形態の希望が高くなっています。

図表 10 【現在就労者の就労形態希望(全体・性別・年齢別)】

- ■正規社員として就労しており、今後も正規社員として就労したい
- □正規社員として就労しているが、今後は非正規社員として就労したい
- ■非正規社員として就労しているが、今後は正規社員として就労したい
- 図非正規社員として就労しており、今後も非正規社員として就労したい
- □わからない



就労予定・希望の方の就労形態希望は、「正規社員として就労したい」が46.2%となっています。 性別でみると、「女性」より「男性」が「正規社員」での就労形態の希望が高くなっています。 年齢別でみると、若い世代ほど、「正規社員」での就労形態の希望が高くなっています。

図表 11 【今後就労を予定・希望する人の就労形態希望(全体・性別・年齢別)】

- ■正規社員として就労したい
- ☑どちらかというと正規社員として就労したい
- ∞どちらかというと非正規社員として就労したい
- ■非正規社員として就労したい
- □わからない

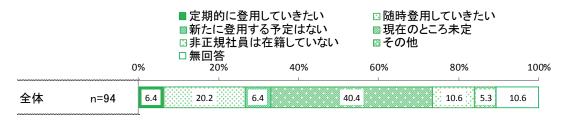


(4) 正規社員への登用と女性管理職の登用(事業所:問8、問12)

◆ (非正規社員の正社員登用)『登用していきたい』26.6%、(女性の管理職役員への 登用)『登用していく』58.5%

非正規社員の正規社員登用は『登用していきたい』(定期的に登用していきたい、随時登用していきたいの合計)が26.6%となっています。また、「現在のところ未定」が40.4%となっています。

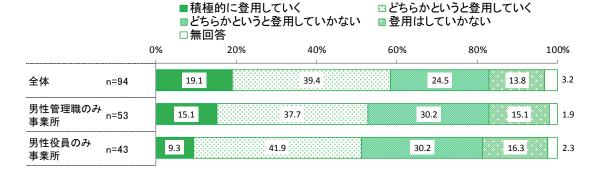
図表 12 【正規社員への登用】



女性の管理職・役員登用については、『登用していく』(積極的に登用していく、どちらかというと登用していくの合計)が 58.5%となっており、『登用していかない』(登用はしていかない、どちらかというと登用していかないの合計)が 38.3%となっています。

男性管理・役員のみの事業所においては、全体と比較すると『登用していく』が低くなっている ものの、半数以上が『登用していく』と回答しています。

図表 13 【女性管理職・役員の登用(全体・管理職役員男女比別)】



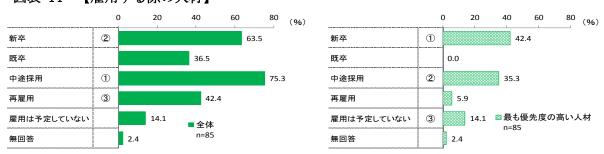
(5) 雇用する際の人材(事業所:問7)(複数回答)

◆ 雇用する際の人材「中途採用」75.3%、「新卒」63.5%

雇用する際の人材は、「中途採用」が 75.3%と最も多く、次いで「新卒」が 63.5%となっています。

また、最も優先順位が高い人材の回答をみると、「新卒」が最も高く、次いで「中途採用」となっています。「既卒」と「再雇用」については、優先順位が低くなっています。

図表 14 【雇用する際の人材】



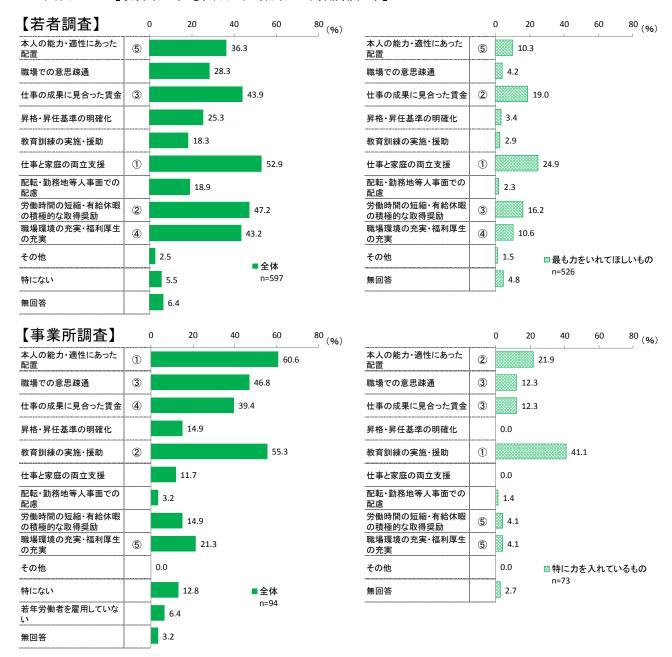
3 若者の就労に対する方針・希望・支援

- (1) 就労者の支援や方針(若者:問33、事業所:問9)(複数回答)
- ◆ (若者が事業所に求める支援)「仕事と家庭の両立支援」52.9%、(事業所が若年労 働者に考える支援)「本人の能力・適性にあった配置」60.6%

若者が事業所に特に力を入れてほしいと考える支援は、「仕事と家庭の両立支援」が52.9%と最も多く、次いで「労働時間の短縮・有給休暇の積極的な取得奨励」が47.2%となっています。また、最も力を入れてほしいものについても類似した傾向となっています。

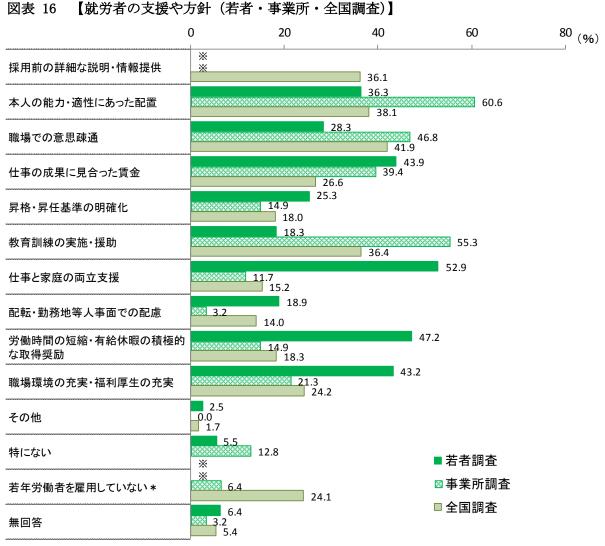
事業所が若年労働者に対して力を入れてきたい支援や方針は、「本人の能力・適性にあった配置」が60.6%と最も多く、次いで「教育訓練実施・援助」が55.3%となっています。また、特に力を入れていくものとして「教育訓練実施・援助」が他の項目より15ポイント以上高くなっています。

図表 15 【就労者の支援や方針(若者・事業所調査)】



若者調査と事業所調査を比較すると、若者の希望が「仕事と家庭の両立支援」で 41.2 ポイント、「職場環境の充実・福利厚生の充実」で 21.9 ポイント、事業所の意向より高くなっています。また、「教育訓練の実施・援助」で 37.0 ポイント、「本人の能力・適性にあった配置」で 24.3 ポイント、事業所の意向が若者の希望より高くなっています。

事業所調査と全国調査(「平成25年若年者雇用実態調査(事業所調査)」厚生労働省)を比較すると、「本人の能力・適性にあった配置」で事業所調査が全国調査より22.5 ポイント高くなっています。また、「配転・勤務地等人事面での配慮」では、全国調査が事業所調査より10.8 ポイント高くなっています。



出典(全国調査):「平成25年若年者雇用実態調査(事業所調査)」厚生労働省 全国調査では「若年正社員の定着のために実施している対策」として質問している。

^{*}全国調査では「若年正社員の定着のための対策は行っていない」 ※調査項目に含まれず

(2) 若年労働者に対する学校、行政の支援(事業所:問11)(複数回答)

◆ (新規学卒者:大学、大学院)「インターンシップへの援助」と「学校などでの職業 教育、職業観教育」がともに 19.1%、(新規学卒者:高校)「学校などでの職業教育、 職業観教育」34.0%、(新規学卒者:専修学校、高専、短大)「学校などでの職業教育、育、職業観教育」23.4%、(中途採用者)「求人・求職情報の充実」22.3%

新規学卒者においては、いずれも「学校などでの職業教育、職業観教育」(大学、大学院は「インターンシップへの援助」が同率)が最も多くなっています。中途採用者では、「求人・求職情報の充実」が22.3%と最も多くなっています。

全国調査と比較すると、豊川市内の事業所の特徴として、「大学、大学院」では、「インターンシップへの援助」、「高校」では、「学校などでの職業教育、職業観教育」、「学校での進路指導の強化」、「インターンシップへの援助」、「専修学校、高専、短大」では、「インターンシップへの援助」、「中途採用者」では、「求人・求職情報の充実、提供」、「トライアル雇用・助成金等の拡充」の希望が高くなっています。

図表 17 【若年労働者に対する学校、行政の支援(事業所・全国調査)】

(%)

			職業観教育学校などでの職業教育、	学校での進路指導の強化	体験)への援助インターンシップ(就業	面の援助というの金銭ののができる。	などの開催企業説明会、就職説明会	提供水人・求職情報の充実、	雇用)・助成金等の拡充トライアル雇用(試行的	その他	特に希望はない
	大学、大学院	豊川市	19.1	10.6	19.1	3.2	18.1	12.8	5.3	-	43.6
	7(1()(1)00	全国	21.7	9.4	9.6	3.5	13.0	13.4	7.8	1.4	51.2
新規	高校	豊川市	34.0	24.5	22.3	4.3	5.3	12.8	8.5	1.1	35.1
学卒者	IPJ*IX	全国	21.2	11.6	8.4	3.7	7.9	11.5	8.0	1.5	53.6
	専修学校(専門課	豊川市	23.4	11.7	17.0	4.3	11.7	13.8	10.6	-	44.7
程)、高専、短大		全国	21.2	10.1	8.9	3.7	9.8	12.8	8.0	1.2	51.8
中途採用者		豊川市	7.4	3.2	6.4	9.6	7.4	22.3	21.3	-	40.4
	上处体用名	全国	11.7	3.6	4.7	7.9	7.4	16.4	14.0	1.8	51.9

全国比較上位 無回答・特に希望はないは除く

出典(全国調査):「平成25年若年者雇用実態調査(事業所調査)」厚生労働省

4 就労就職支援と採用

(1) 就職活動の際の情報収集と採用事業所の募集(若者:問35、事業所:問15)(複数回答)

◆ 就職活動の際の情報収集先「公共職業安定所(ハローワーク等)」58.6%

就職活動する際の情報収集先は、「公共職業安定所」が 58.6%と最も多く、次いで「就職情報誌、新聞の求人広告・チラシ」が 42.6%、「インターネットや携帯電話などの就職情報サイト」が 40.0% となっています。

性別でみると、「就職情報誌、新聞の求人広告・チラシ」では、女性が男性より 21.9 ポイント高く、「会社説明会」では、男性が女性より 11.2 ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「公共職業安定所」と「就職情報誌、新聞の求人広告・チラシ」では「31~40歳」で最も高く、「学校の先生等の紹介・推薦等」では「16歳~20歳」が最も多くなっています。

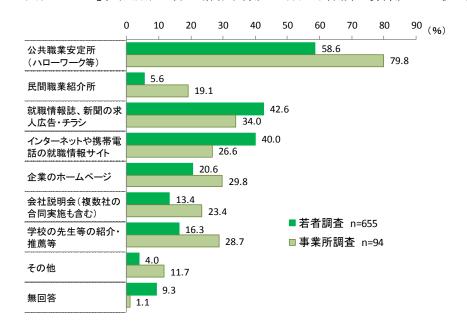
図表 18 【就職活動の際の情報収集先(全体・性別・年齢別)】

(%)

	全体(n)	等) (ハロー ワー ク公共職業安定所	民間職業紹介所	シの求人広告・チラ就職情報誌、新聞	報サイト携帯電話の就職情インター ネットや	企業の ホームページ	む) 社の合同実施も含会社説明会(複数	学校の先生等の	その他	無 回 答	
全体	655	58.6	5.6	42.6	40.0	20.6	13.4	16.3	4.0	9.3	
男性	270	48.5	5.6	30.0	37.0	28.1	20.0	21.1	4.8	11.5	
女性	376	66.0	5.6	51.9	42.3	14.9	8.8	13.0	3.5	7.7	
16歳~20歳	86	34.9	1.2	23.3	29.1	22.1	19.8	47.7	3.5	11.6	
21歳~30歳	213	55.9	6.6	38.0	54.9	27.2	21.1	17.4	4.2	7.5	
31歳~40歳	353	66.0	6.2	50.1	34.0	16.1	7.4	7.9	4.0	9.9	

若者の就職活動の際の情報収集先と採用事業所の募集方法・募集先を比較すると、「インターネットや携帯電話の就職情報サイト」で13.4ポイント、「就職情報誌、新聞の求人広告・チラシ」で8.6 ポイント、若者の就職活動の際の情報収集先が高くなっています。

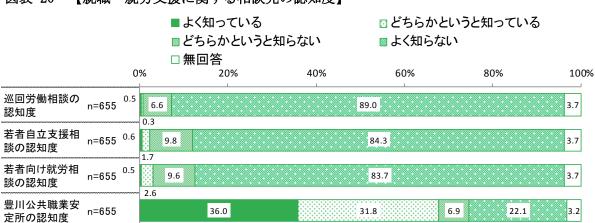
図表 19 【就職活動の際の情報収集先と採用事業所の募集先の比較(若者・事業所調査)】



(2) 就職・就労支援に関する相談先の認知度(若者:問36)

◆ (豊川市公共職業安定所)『知っている』67.8%

就職・就労支援に関する相談先について、『知っている』(よく知っている、どちらかというと知っているの合計)が最も多かったのは、「豊川公共職業安定所」で 67.8%となっています。また、他の相談支援については、『知っている』が 5 %未満となっています。



図表 20 【就職・就労支援に関する相談先の認知度】

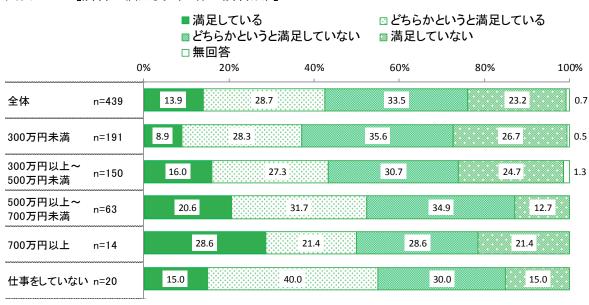
5 所得の満足度

(1) 所得の満足度(若者:問30)

◆ 所得の満足度「どちらかというと満足していない」33.5%

所得の満足度については、「どちらかというと満足していない」が 33.5%と最も多く、次いで「どちらかというと満足している」が 28.7%となっています。

所得別でみると、所得が高くなるほど「満足している」割合が高くなっています。



図表 21 【所得の満足度(全体・所得別)】

3. 事業所の現状把握と市の産業振興策

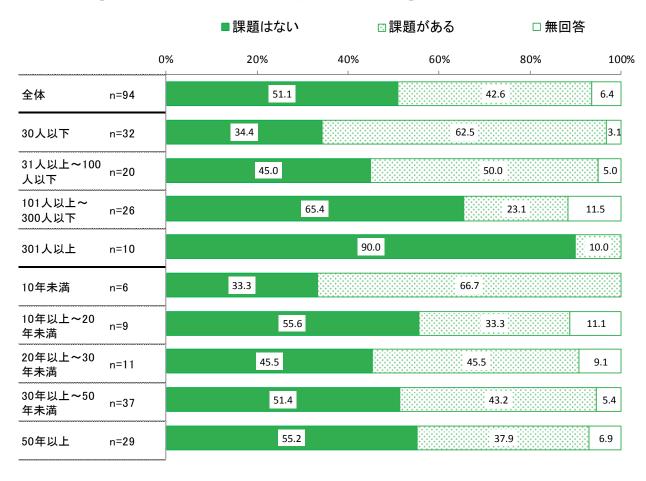
1 事業継承の課題

(1) 事業継承の課題の有無(事業所:問13)

◆ 事業継承の課題「課題はない」51.1%、「課題がある」42.6%

事業継承の課題については、「課題はない」が 51.1%、「課題がある」が 42.6%となっています。 全社員数別でみると、人数が多くなればなるほど「課題がある」の割合が低くなっています。 設立年数別でみると、設立年数が長くなればなるほど「課題がある」の割合が低くなる傾向がみ られます。

図表 22 【事業継承の課題 (全体・全社員数・設立年数別)】

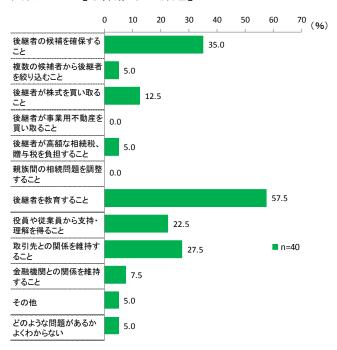


(2) 事業継承の課題(事業所:問14)(複数回答)

◆ 事業継承の課題「後継者を教育すること」57.5%

事業継承の課題については、「後継者を教育すること」が 57.5%と最も多く、次いで「後継者の候補を確保すること」が 35.0%、「取引先との関係を維持すること」が 27.5%となっています。

図表 23 【事業継承の課題】



2 新分野・新業務への取り組み意向

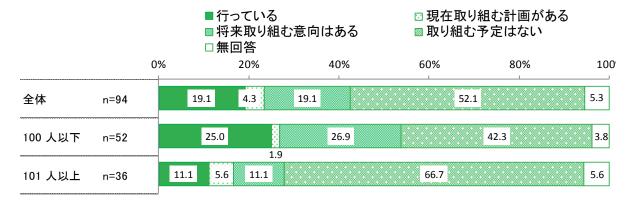
(1) 新分野、新業務への取り組み意向(事業所:問16)

◆ 新分野、新業務に『取り組んでいる、計画がある、意向はある』42.5%

新分野、新業務への取り組み意向については、『取り組んでいる、計画がある、意向はある』が 42.5% となっています。

全社員数別でみると、『取り組んでいる、計画がある、意向はある』については、「100人以下」が「101人以上」より26.0ポイント高くなっています。

図表 24 【新分野、新業務への取り組み意向(全体・全社員数別)】



(2) 新分野、新業務の取り組みで特に重要視している分野(事業所:問17)

◆ 重要視している新分野「製造」22.5%、「環境・リサイクル」12.5%

重要視している新分野については、「製造」が22.5%と最も多く、次いで「環境・リサイクル」が12.5%、「建設」、「生活関連サービス・娯楽」、「医療・福祉」がともに10.0%となっています。

(%) 30 22.5 ■ n=40 20 10.0 10.0 10.0 10 7.5 7.5 5.0 5.0 2.5 2.5 2.5 0.0 0.0 0.0 0.0 0 農 水雷 運 卸 余 物不 宿 ス牛 教 医 そ リ環 省新 ジバ ĺ١ 造 · 活 サ境 II 設 林 融 品動 の 道気 泊 輸 売 育 療 イ・ク 賃 産 貸 • ъk 娯 閗 ネネ 他 オテ 熱ガ 保 飲 学 褔 ルル 情 通 小 楽連 + 習 ル ギギー ク 供ス 信 売 険 食 北 報 関 給• 幸 Ĕ

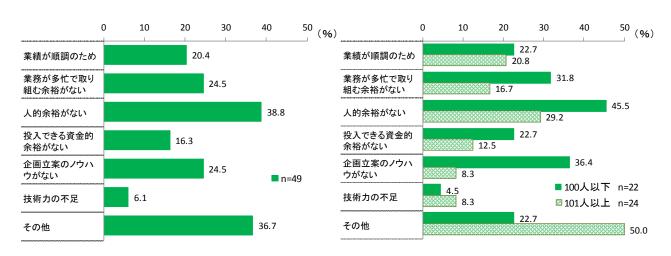
図表 25 【重要視している新分野・新業務】

(3) 新分野、新業務に取り組まない理由(事業所:問18)(複数回答)

◆ 新分野、新業務に取り組まない理由「人的余裕がない」38.8%

新分野、新業務に取り組まない理由は、「人的余裕がない」が38.8%と最も多く、次いで「その他」が36.7%、「業務が多忙で取り組む予定がない」・「企画立案のノウハウがない」がともに24.5%となっています。

全社員数別でみると、「技術力不足」・「その他」以外で「100 人以下」が「101 人以上」より高くなっています。特に「企画立案のノウハウがない」では、「100 人以下」が「101 人以上」より 28.1 ポイント高くなっています。



図表 26 【新分野、新業務に取り組まない理由(全体・全社員数別)】

3 事業所の新設・移転

(1) 事業所の新設・移転(今後10年程度)の意向(事業所:問19)

◆ 「新設したい・する予定がある」14.9%、「移転したい・する予定がある」11.7%

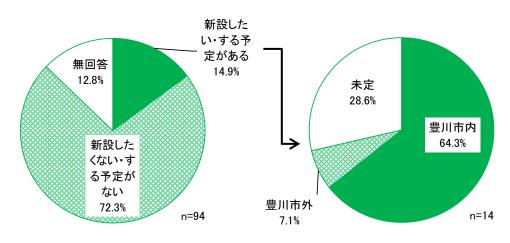
事業所の新設については、「新設したい・する予定がある」が14.9%となっています。希望する場所としては、「豊川市内」が64.3%、「豊川市外」が7.1%、「未定」が28.6%となっています。

事業所の移転については、「移転したい・する予定がある」が 11.7% となっています。希望する場所としては、「豊川市内」が 63.6%、「豊川市外」が 9.1%、「未定」が 27.3% となっています。

図表 27 【事業所の新設・移転の意向】

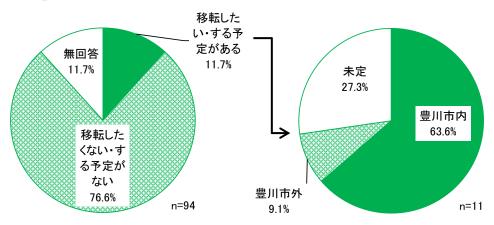
【(1)新設】①意向・予定の有無

②希望する場所



【(2) 移転】①意向・予定の有無

②希望する場所



4 産業振興策・支援について

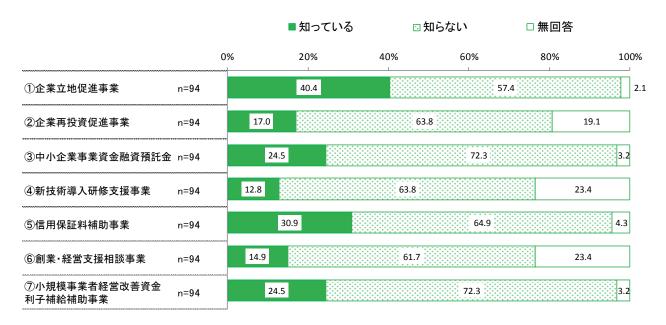
(1) 工業・商業振興事業の認知度と支援希望(事業所:問20)

◆ 認知度「企業立地促進事業」40.4%、支援希望「企業再投資促進事業」39.4%

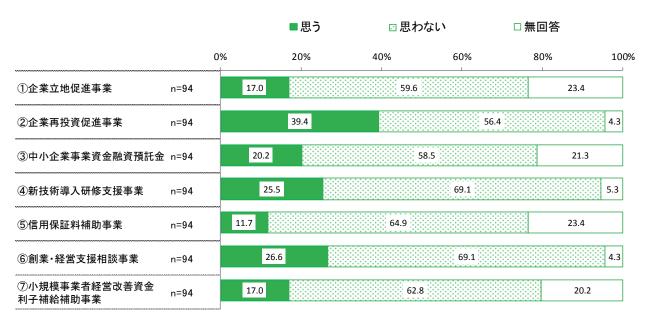
工業・商業振興事業の認知度については、「企業立地促進事業」が 40.4%と最も高く、次いで「信用保証料補助事業」が 30.9%、「中小企業事業資金融資預託金」・「小規模事業者経営改善資金利子補給補助事業」がともに 24.5%となっています。

工業・商業振興事業の支援希望については、「企業再投資促進事業」が39.4%と最も高く、次いで「創業・経営支援相談事業」が26.6%、「新技術導入研修支援事業」が25.5%となっています。

図表 28 【工業・商業振興事業の認知度】



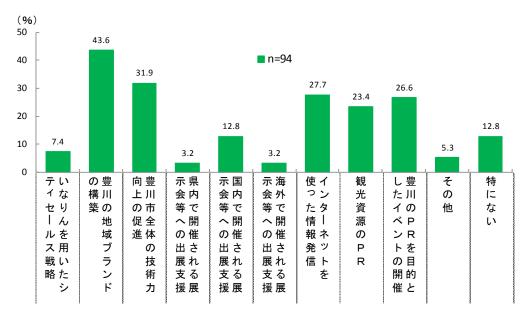
図表 29 【工業・商業振興事業の支援希望】



(2) 産業振興の行政機関・支援機関への期待(事業所:問21)

◆ 産業振興への期待「豊川の地域ブランドの構築」43.6%

産業振興を進めるにあたり、行政機関・支援機関への取り組みの期待としては、「豊川の地域ブランドの構築」が 43.6%と最も多く、次いで「豊川市全体の技術力向上の促進」が 31.9%、「インターネットを使った情報発信」が 27.7%となっています。

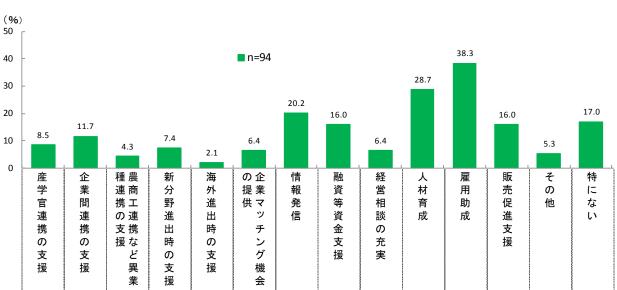


図表 30 【産業振興の行政機関・支援機関への期待】

(3) 事業活動を実施する上で行政に望む支援策(事業所:問22)

◆ 事業活動への期待「雇用助成」38.3%

事業活動を実施していくにあたり、行政に望む支援策は、「雇用助成」が38.3%と最も多く、次いで「人材育成」が28.7%、「情報発信」が20.2%となっています。



図表 31 【事業活動を実施する上で行政に望む支援策】

4. 結婚に関する意識調査について

1 結婚に関する現状と希望

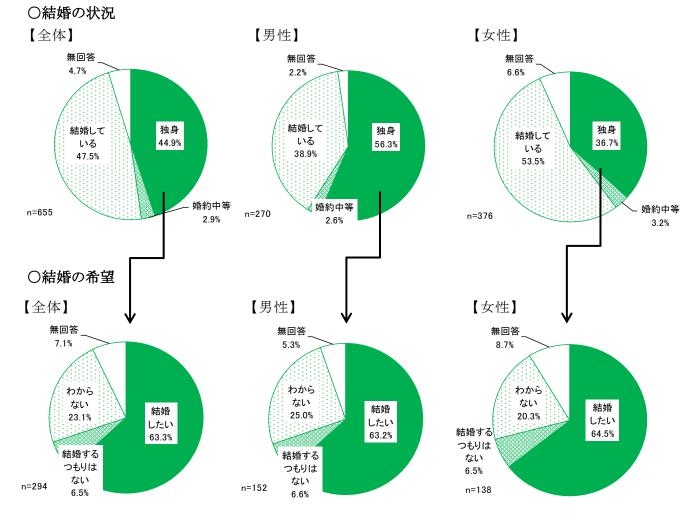
(1)結婚の状況と希望(若者:問11、問13)

◆ 「独身」で「結婚したい」が6割以上(結婚希望)

結婚経験については、「独身」が 44.9%、「婚約中等」が 2.9%、「結婚している」が 47.5%となって います。

性別でみると、「独身」については、男性が女性より 19.6 ポイント高くなっています。 結婚の希望については、独身と回答した方の中で、6割以上が「結婚したい」と回答しています。 性別でみると、特に差はみられませんでした。

図表 32 【結婚の状況と希望(全体・性別)】

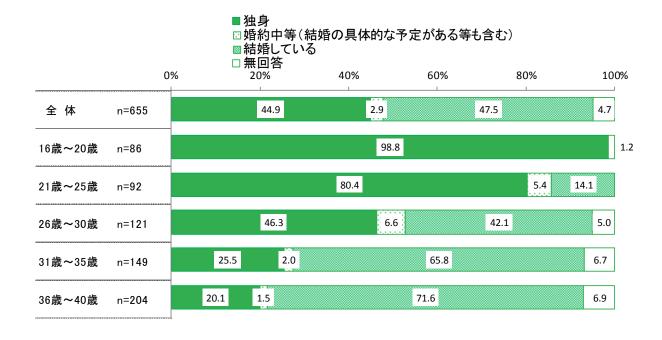


結婚の状況を年齢別でみると、年齢が高くなるにつれて、「独身」の回答が減少しています。

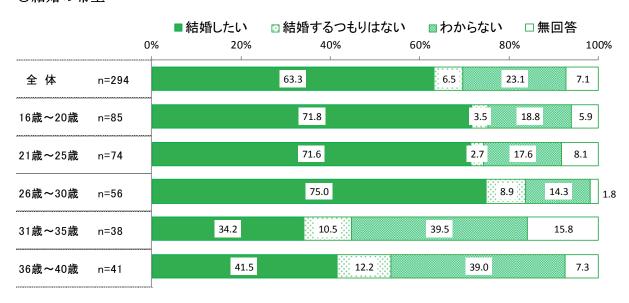
独身と回答した方の結婚希望は、16 歳 \sim 30 歳までは7割以上となっていますが、31 歳 \sim 40 歳は5割以下となっています。この結果から、20 代と 30 代で結婚の希望に差がみられることがわかります。

図表 33 【結婚の状況と希望(全体・年齢別)】

○結婚の状況



○結婚の希望



2 独身でいる理由・結婚を決めた理由

(1)独身でいる理由(若者:問12)(複数回答)

◆ 独身でいる理由「結婚したいと思える相手と出会っていないから」48.6%

独身でいる理由については、「結婚したいと思える相手と出会っていないから」が 48.6%と最も多く、次いで「年齢的に結婚するのはまだ早いから」が 36.4%となっています。また、1番目の理由としては、「年齢的に結婚するにはまだ早いから」が 27.9%と最も多くなっています。

性別でみると、「結婚したあとの生活費などに不安があるから」については、「男性」が「女性」より 20.3 ポイント高く、「今は仕事や学業のほうが大切だから」については、「女性」が「男性」より 9.2 ポイント高くなっています。

年齢別でみると、16 歳~20 歳では、「年齢的に結婚するのはまだ早いから」が最も多く、その他の年齢では、「結婚したいと思える相手と出会っていないから」が最も多くなっています。

60 (%) 20 40 0 20 40 (%) 年齢的に結婚するにはまだ 年齢的に結婚するにはまだ (2) 36.4 (1) 27.9 早いから 早いから 結婚が必要だと感じないか 結婚が必要だと感じないか 18.0 **(4**) 8.5 今は仕事や学業のほうが大 今は仕事や学業のほうが大 (3) 9.5 31.3 切だから 切だから 今は趣味や娯楽のほうが大 今は趣味や娯楽のほうが大 15.3 2.0 切だから 切だから 今は自由さや気楽さを満喫 今は自由さや気楽さを満喫 6.8 4 26.9 したいから したいから 結婚したいと思える相手と 結婚したいと思える相手と (1) 21.1 48.6 出会っていないから 出会っていないから 異性との交際が苦手だから 15.0 異性との交際が苦手だから 3.7 結婚式などの資金が工面で 結婚式などの資金が工面で 12.9 3.1 きないから きないから 結婚したあとの生活費など 結婚したあとの生活費など 4.4 25.9 に不安があるから に不安があるから 親や周りの人が結婚に同意 親や周りの人が結婚に同意 0.7 3.7 してくれない(だろう)から してくれない(だろう)から 図1番目の理由 ■全体 配偶者と死別して、他の人 配偶者と死別して、他の人 0.3 0.3 n=294 n=294 と結婚する気がないから と結婚する気がないから 配偶者と離別して、他の人 配偶者と離別して、他の人 3.1 4.8 と結婚する気がないから と結婚する気がないから 4.1 その他 6.1 その他 4.1 4.1 特に理由はない 特に理由はない

無回答

0.7

(%)

図表 34 【独身でいる理由(全体・性別・年齢別)】

0.7

無回答

																,
	全 体(n)	いから年齢的に結婚するにはまだ早	結婚が必要だと感じないから	だから 今は仕事や学業のほうが大切	だから今は趣味や娯楽のほうが大切	たいから今は自由さや気楽さを満喫し	会っていないから結婚したいと思える相手と出	異性との交際が苦手だから	ないから結婚式などの資金が工面でき	不安があるから	てくれない(だろう)から親や周りの人が結婚に同意し	結婚する気がないから配偶者と死別して、他の人と	結婚する気がないから配偶者と離別して、他の人と	その他	特に理由はない	無回答
男性	152	34.9	17.8	27.0	15.8	23.7	44.7	19.7	13.8	35.5	3.3	-	3.3	8.6	3.3	0.7
女性	138	39.1	18.1	36.2	15.2	30.4	52.2	10.1	12.3	15.2	4.3	0.7	6.5	3.6	4.3	0.7
16歳~20歳	85	85.9	15.3	54.1	14.1	14.1	37.6	7.1	3.5	8.2	2.4	-	1.2	2.4	2.4	-
21歳~25歳	74	43.2	10.8	37.8	20.3	28.4	54.1	17.6	21.6	29.7	5.4	_	1.4	4.1	2.7	_
26歳~30歳	56	1.8	17.9	12.5	14.3	39.3	55.4	21.4	17.9	32.1	-	-	1.8	8.9	5.4	1.8
31歳~35歳	38	-	36.8	18.4	15.8	28.9	47.4	10.5	5.3	28.9	10.5	-	13.2	15.8	10.5	_
36歳~40歳	41	2.4	19.5	9.8	9.8	31.7	53.7	22.0	17.1	43.9	2.4	2.4	14.6	4.9	2.4	2.4

(2) 結婚を決めた理由(若者:問14)(複数回答)

◆ 結婚を決めた理由「一緒にいて楽しい、気を遣わない」48.8%

結婚を決めた理由については、「一緒にいて楽しい、気を遣わない」が48.8%と最も多く、次いで「タイミングがあったので」が48.2%となっています。また、1番目の理由としても同様に「一緒にいて楽しい、気を遣わない」が19.4%と最も多くなっています。

性別でみると、「相手の年齢を考えて」については、「男性」が「女性」より 24.1 ポイント高く、「自分の年齢を考えて」については、「女性」が「男性」より 12.3 ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「一緒にいて楽しい、気を遣わない」については、年齢が低くなるにつれて増加する傾向があり、「タイミングがあったので」については、年齢が高くなるにつれて増加する傾向があります。

0 20 0 20 60 (%) 40 60 40 (%) 自分の年齢を考えて 3 38.5 自分の年齢を考えて 2 16.4 16.1 5.5 相手の年齢を考えて 相手の年齢を考えて 親の年齢を考えて 1.2 親の年齢を考えて 0.0 交際期間の長さを考えて 22.1 5.5 交際期間の長さを考えて 仕事で変化が生じたので 仕事で変化が生じたので 2.1 4.5 (就職・転勤・転職等) (就職・転勤・転職等) 友達・知り合いの多くが結 友達・知り合いの多くが結 4.8 0.9 婚したので 婚したので 家族・子どもがほしくなった 家族・子どもがほしくなった 8.5 4 32.7 ので 子どもができたので 14.2 10.9 子どもができたので 経済的に安定できると思っ 経済的に安定できると思っ 8.8 0.6 たので たので 26.4 8.8 価値観があったので (5) 価値観があったので -緒にいて楽しい、気を遣 -緒にいて楽しい、気を遣 19.4 (1) 48.8 1 1.8 4.5 周りから結婚を促されて 周りから結婚を促されて 15.8 タイミングがあったので 2 48.2 タイミングがあったので 2.4 その他 3.6 その他 ■全体 図1番目の理由 1.2 n=330 1.2 n=330 特にきっかけはない 特にきっかけはない 無回答 0.3 無回答 0.3

図表 35 【結婚を決めた理由(全体・性別・年齢別)】

																	(%)
	全体(n)	自分の年齢を考えて	相手の年齢を考えて	親の年齢を考えて	交際期間の長さを考えて	(就職・転勤・転職等)仕事で変化が生じたので	友達・知り合いの多くが	ので家族・子どもがほしくなった	子どもができたので	経済的に安定できると	価値観があったので	一緒にいて楽しい、	周りから結婚を促されて	タイミングがあったので	その他	特にきっかけはない	無回答
男性	112	30.4	32.1	1.8	26.8	4.5	7.1	28.6	8.9	4.5	25.9	43.8	6.3	47.3	1.8	0.9	-
女性	213	42.7	8.0	0.9	19.2	4.7	3.8	35.7	17.4	10.8	26.3	51.2	3.3	48.4	4.2	1.4	0.5
16歳~20歳	-	-	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
21歳~25歳	18	11.1	22.2	-	22.2	5.6	-	27.8	27.8	5.6	38.9	66.7	5.6	33.3	5.6	-	-
26歳~30歳	59	37.3	22.0	-	18.6	3.4	3.4	37.3	22.0	5.1	22.0	54.2	1.7	47.5	3.4	-	-
31歳~35歳	101	35.6	13.9	1.0	22.8	4.0	5.9	36.6	13.9	12.9	26.7	52.5	5.0	47.5	3.0	1.0	1.0
36歳~40歳	149	44.3	14.8	2.0	22.8	5.4	5.4	28.9	10.1	8.1	26.8	42.3	4.7	50.3	4.0	2.0	-

3 結婚に対して感じた不安

(1) 結婚したとき(したいと思ったとき)に感じた不安(若者:問 15)(複数回答)

◆ 結婚に対して感じた不安「出産や子育てについて」31.4%

結婚に対して感じた(感じている)不安については、「出産や子育てについて」が31.4%と最も多く、次いで「家事と仕事の両立ができるかについて」と「相手の家族や親戚との付き合いについて」がともに30.0%となっています。

性別でみると、「結婚後の安定した生活費の確保について」では、「男性」が「女性」より 11.6 ポイント高くなっています。また、「家事と仕事の両立ができるかどうか」については、「女性」が「男性」より 28.2 ポイント高く、「相手の家族や親戚との付き合いについて」では、「女性」が「男性」より 20.1 ポイント高くなっています。

年齢でみると、「16歳~20歳」では、「結婚相手となる異性と出会う機会がないことについて」が最も多く、「21歳~30歳」では、「結婚後の安定した生活費の確保について」と「出産や子育てについて」がともに最も多くなっています。また、「31歳~40歳」では、「相手の家族や親戚との付き合いについて」と「出産や子育てについて」が最も多くなっています。

職業別でみると、「正規雇用」では、「結婚後の安定した生活費の確保について」、非正規雇用では、「相手の家族や親戚との付き合いについて」、「学生」では、「結婚相手となる異性と出会う機会がないことについて」、「家事専業」では、「出産や子育てについて」が最も多くなっています。

【結婚に対して感じた不安(全体・性別・年齢・職業別)】 図表 36 (%) 40 n=516 31.4 30.0 30.0 29.1 30 23.3 20 16.3 12.8 10.5 11.4 10.1 10 6.2 5.8 3.5 1.7 O でと入安 なにが定 に出結 と婚交 にの結 し親 費 結 れ結 てへ職 き家 居付相 にの際 つめ婚 の場 る事 ر ص に 口 なや の婚 る婚 等き手 産 つ会婚 いう相 つき相いっ手 いつ安し いど生 かと が合の 不 確後 て機手 等い定た てが活 保の ども 解の に仕 必い家 安 こ囲 に安 会と てかは もてし職 たの とが う仕 や結 つ事 要に族 育 は がな 支婚 援や けい 含 へてに たた に結 つ定 か事 いの もつや τ ない む正いつ にが がる 含い親 なる なめ つ婚 いし て両 に むて戚 っ い異 なが 規なけ いの いに つ続 に出 立 てた こ性 雇いず こ住 て同 生 いけ つ産 が l١ こ結 用こ収 と居 同の

(%) 全 どうか. 、定安 き交っ際 出産や 会婚が相 正し定規てし た婚た生 とやに周 に婚つ後 つ事いと むに手 〜つの や場 の に不 回 規雇に対していた。 か相 支で援の な手いと け手がは な活いの つ囲いが いのて安 にもつ仕 い家て族 体 安は 子育てについて に結 ことにつ ないこといるが、 n でいになこつ こたとめ て結 つ婚いや の両 同親 居等が、 にの仕 とけ に同 て出 立が い等も含むいず収入が切 け いとと に結つ婚 意し ての 費 ħ 必付 か も合 1.9 36.1 4.3 48 13.5 18.3 13.5 男性 208 27.9 5.3 144 7.2 245 1.4 19.2 女性 12.3 16歳~20歳 37.7 1.6 11.5 9.8 6.6 14.8 14.8 29.5 27.9 3.3 19.7 3.3 61 36.6 12.2 21歳~30歳 172 31.4 7.0 12.2 6.4 3.5 36.6 8.7 14.0 34.9 32.6 1.2 12.8 31歳~40歳 154 6.8 46 29 10.7 18 179 15.0 280 86 93 271 28.9 28.9 正規雇用 13.0 246 28.5 6.1 6.1 3.7 2.4 34.6 8.1 9.8 28.9 25.2 31.7 0.8 14.6 非正規雇用 105 12.4 9.5 17.1 8.6 1.9 28.6 14.3 16.2 33.3 35.2 25.7 1.0 15.2 15.2 自営業·自由業 12 16.7 8.3 16.7 16.7 16.7 25.0 33.3 学牛 61 37.7 1.6 16.4 9.8 8.2 27.9 19.7 13.1 31.1 29.5 27.9 3.3 21.3 4.9 家事専業 83 84 6.0 84 48 60 157 84 96 313 410 434 48 193 108 無職(年金生活者等を含む) 62.5 25.0 25.0 62.5 12.5 25.0 25.0 25.0 25.0 100.0

※自営業・無職・その他はn値が少ないため、ここでは分析の対象としていません。

4 結婚に関する考え方について

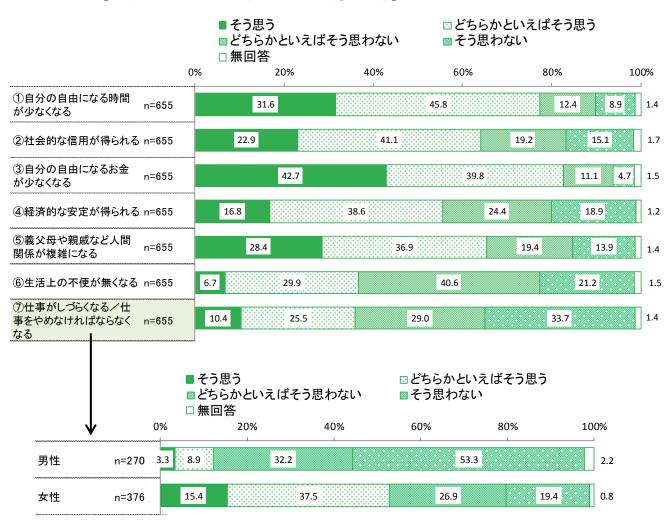
(1) 結婚に対する考え方について(若者:問10)

◆ (自分の自由になるお金が少なくなる)『そう思う』82.5%

結婚に対する各考え方に対して『そう思う』(そう思う、どちらかといえばそう思うの合計)が最も多かったものは、「③自分の自由になるお金が無くなる」が82.5%となっており、次いで「①自分の自由になる時間が少なくなる」が77.4%となっています。

また、「⑦仕事がしづらくなる/仕事をやめなければならなくなる」について性別でみると、『そう思わない』(そう思わない、どちらかといえばそう思わないの合計)との回答が、「男性」が「女性」より39.2ポイント高くなっています。

図表 37 【結婚に対する考え方(全体・性別(⑦のみ))】



出産に関する意識調査について 5.

出産に関する現状と理想

(1) 出産に関する現状と理想(若者:問16、問17、問18)

「希望する子どもの人数:2人」53.4%、「理想的な子どもの人数:2人」46.1%

現在の子どもの人数については、子どもがいない人を除いて「2人」が最も多く、希望する子ど もの人数(最終的に持つつもりの子どもの人数)と理想的な子どもの人数についても同様に、「2人」 が最も多くなっています。

20 40 60 (%) 49.5 5.2 10.7 0人 9.6 1人 2.3 20.9 2人 **53.4** 46.1 20.0 3人 37.4 0.6 1.8 4人 4.7 0.0 0.0 0.5 5人 0.2 0.2 0.0 6人 0.0 0.0 0.0 ■現在の子どもの人数 n=655 7人 図希望する子どもの人数 n=655 0.0 0.0 0.6 ■理想的な子どもの人数 n=655 8人以上 3.7 4.3 3.2 無回答

図表 38 【出産に関する現状と理想】

(2) 希望子ども数と理想子ども数(若者:問17、問18)

▶ 希望子ども数:平均 1.93 人、理想子ども数:平均 2.41 人

希望する子どもの人数は平均 1.93 人、理想とする子どもの人数は平均 2.41 人となっており、理 想の人数が希望の人数より 0.48 人多くなっています。

性別でみると、希望子ども数・理想子ども数ともに、女性が男性より 0.23 人多くなっています。

【希望子ども数と理想子ども数(全体・性別)】

(人)

	希望子ども数	理想子ども数
全体	1.93	2.41
男性	1.80	2.27
女性	2.03	2.50

※各子ども数の無回答者を除外し、「8人以上」は「8人」として、計算しています。

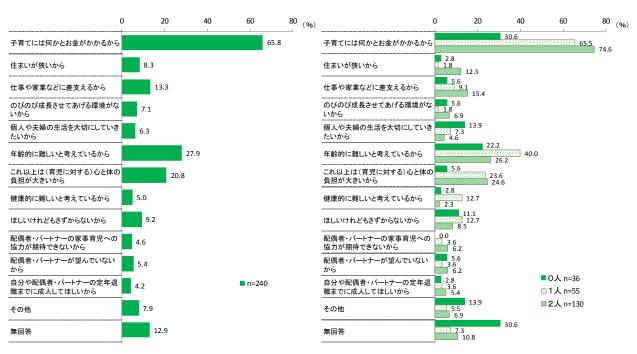
2 子どもを持つのに消極的な理由

(1)希望子ども数が理想子ども数より少ない理由(若者:問19)(複数回答)

◆ 消極的な理由「子育でには何かとお金がかかるから」65.8%

子どもを持つのに消極的な理由は、「子育てには何かとお金がかかるから」が 65.8%と最も多く、 次いで「年齢的に難しいと考えているから」が 27.9%となっています。

希望子ども数(0人・1人・2人)別でみると、いずれにおいても「子育てには何かとお金がかかるから」が最も多く、希望子ども数が多いほど「子育てには何かとお金がかかるから」と回答した割合が高くなっています。



図表 40 【希望子ども数が理想子ども数より少ない理由(全体・希望子ども数別)】

性別でみると、「のびのび成長させてあげる環境がないから」で「男性」が「女性」より 4.7 ポイント高くなっています。また、「これ以上は心と体の負担が大きいから」14.0 ポイント、「年齢的に難しいと考えているから」が 12.9 ポイント、「女性」が「男性」より高くなっています。

図表 41 【希望子ども数が理想子ども数より少ない理由(性別

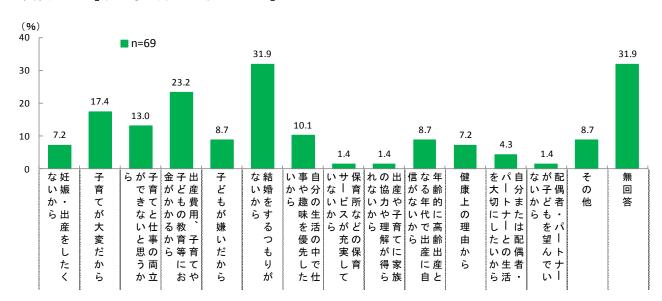
(%)

	全	ら子	住	仕	なの	き個	年	体こ	健	ほ	の配	い配	退自	そ	無
		育	ま	事	いび	た人	齢	のれ	康	し	協偶	か偶	職分	の	回
		て	い	や	かの	いや	的	負以	的	い	力者	ら者	まや	他	答
	体	に	が	家	らび	か夫	に	担上	に	け	が・	•	で配		
	^	は	狭	業	成	ら婦	難	がは	難	れ	期パ	パ	に偶		
	n	何	い	な	長	の	し	大へ	し	ど	待丨	- 1	成者		
	\sim	か	か	ど	さ	生	い	き育	い	ŧ	でト	۲	人・		
		ح	6	に	せ	活	ح	い児	٤	さ	きナ	ナ	しパ		
		お		差	て	を	考	かに	考	ず	な丨	- 1	て丨		
		金		支	あ	大	え	ら対	え	か	いの	が	ほト		
		が		え	げ	切	て	す	て	b	か家	望	しナ		
		か		る	る	に	い	る	い	な	ら事	ん	いし		
		か		か	環	し	る	$\overline{}$	る	い	育	で	かの		
		る		b	境	て	か	心	か	か	児	い	ら定		
		か			が	い	6	ح	b	b	^	な	年		
男性	89	65.2	7.9	9.0	10.1	5.6	20.2	12.4	5.6	9.0	-	6.7	4.5	6.7	14.6
女性	148	67.6	8.8	16.2	5.4	6.8	33.1	26.4	4.7	9.5	7.4	4.7	4.1	8.1	10.8

(2)子どもを持ちたくない理由(若者:問20)(複数回答)

◆ 子どもを持ちたくない理由「結婚をするつもりがないから」31.9%

子どもを持ちたくない理由としては、「結婚をするつもりがない」が31.9%と最も多く、次いで「出 産費用、子育てや子どもの教育等にお金がかかるから」が23.2%となっています。



図表 42 【子どもを持ちたくない理由】

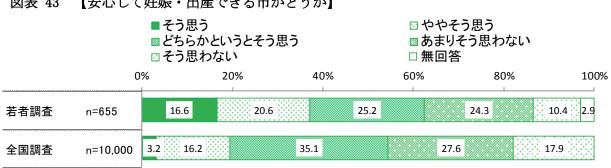
安心して妊娠・出産できるまち

(1)豊川市は安心して妊娠・出産できる市と思うか(若者:問21)

◆ 安心して妊娠・出産できる『そう思う』37.2%

安心して妊娠・出産できる市かどうかについては、『そう思う』(そう思う、ややそう思うの合計) が37.2%となっています。

全国調査(平成 25 年度「少子化社会対策大綱の見直しに向けた意識調査」内閣府)と比較すると 『そう思う』については、若者調査が全国調査より17.8ポイント高くなっています。



【安心して妊娠・出産できる市かどうか】 図表 43

※出典(全国調査): 平成25年度「少子化社会対策大綱の見直しに向けた意識調査」内閣府

※全国調査の設問は「安心して妊娠・出産できるような社会ですか」、選択肢は「そう思う」「ややそう思う」「ど ちらともいえない」「あまりそう思わない」「そう思わない」となっています。

4 少子化対策施策

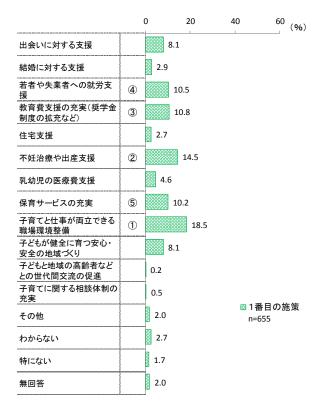
(1) 少子化対策施策の優先度(若者:問22)(複数回答)

◆ 「子育てと仕事が両立できる職場環境整備」48.5%

少子化対策として求められている施策は、「子育てと仕事が両立できる職場環境整備」が 48.5%と 最も多く、次いで「保育サービスの充実」が 38.5%、「教育費支援の充実」が 33.1%となっています。また、最も求めている施策 (1番目) については、「子育てと仕事が両立できる職場環境整備」に次いで「不妊治療や出産支援」が多くなっています。

図表 44 【少子化対策施策の優先度】





性別でみると、男女ともに「子育てと仕事が両立できる職場環境の整備」が最も多くなっています。しかしながら、「子育てと仕事が両立できる職場環境の整備」について性別で比較すると、「女性」が「男性」より 19.6 ポイント高くなっています。

年齢別でみると、どの年代においても「子育てと仕事が両立できる職場環境の整備」が最も多くなっています。また、「若者や失業者への就労支援」については、年齢が低くなるほど増加している傾向があります。

転出入別でみると、「ずっと豊川市に居住している」方と「Iターン」の方においては、「子育てと仕事が両立できる職場環境の整備」が最も多く、「Uターン」の方においては、「保育サービスの充実」が最も多くなっています。

居住意向別でみると、『住み続けたい』『住み続けたくない』「わからない」を選択した方のすべてで「子育てと仕事が両立できる職場環境の整備」が最も多くなっています。

暮らしやすさ別でみると、『暮らしやすい』「どちらともいえない」を選択した方では、「子育てと 仕事が両立できる職場環境の整備」が最も多く、『暮らしにくい』を選択した方では、「保育サービ スの充実」が最も多くなっています。

図表 45 【少子化対策施策の優先度(性別・年齢・転出入・居住意向・暮らしやすさ別)】

1	04	١
(70	,

	全 体 (n)	出会いに対する支援	結婚に対する支援	援若者や失業者への就労支	金制度の拡充など)教育費支援の充実(奨学	住宅支援	不妊治療や出産支援	乳幼児の医療費支援	保育サー ビスの充実	る職場環境整備子育てと仕事が両立でき	心・安全の地域づくり子どもが健全に育つ安	どとの世代間交流の促進子どもと地域の高齢者な	の充実子育でに関する相談体制	その他	わからない	特にない	無回答
男性	270	21.1	17.4	24.1	29.3	19.6	17.8	14.1	35.6	37.0	32.6	3.7	9.3	3.7	2.2	2.2	2.2
女性	376	6.6	5.6	19.4	35.6	10.9	32.7	21.5	40.4	56.6	30.6	4.3	4.3	4.3	3.2	1.1	1.9
16歳~20歳	86	16.3	12.8	31.4	33.7	10.5	11.6	12.8	26.7	45.3	32.6	5.8	3.5	1.2	8.1	2.3	2.3
21歳~30歳	213	16.9	15.0	22.1	26.8	19.2	23.5	24.9	38.0	43.2	32.4	1.4	5.6	1.9	3.3	1.4	2.8
31歳~40歳	353	9.3	7.1	18.4	36.8	12.5	31.7	15.6	41.6	52.4	30.6	5.4	7.1	5.9	1.1	1.7	1.4
ずっと豊川市に居住している	299	15.4	13.7	27.8	31.1	13.7	21.1	16.1	34.1	51.2	30.1	3.0	4.3	2.7	3.7	1.3	3.0
Uターン	106	18.9	13.2	17.9	28.3	18.9	29.2	17.9	42.5	34.9	32.1	4.7	6.6	3.8	3.8	1.9	1.9
Iターン	245	6.9	5.7	15.5	38.0	13.5	31.4	21.2	42.0	51.4	32.7	5.3	8.2	6.1	1.2	2.0	-
『住み続けたい』	494	14.4	10.3	20.2	33.4	14.0	28.1	16.6	38.1	49.4	32.2	4.0	6.5	4.3	2.8	1.2	1.6
『住み続けたくない』	59	8.5	6.8	32.2	35.6	15.3	20.3	27.1	40.7	42.4	33.9	5.1	6.8	3.4	1.7	3.4	-
わからない	98	6.1	13.3	21.4	31.6	16.3	20.4	21.4	40.8	48.0	26.5	4.1	5.1	4.1	3.1	2.0	4.1
『暮らしやすい』	515	13.2	10.5	21.0	32.4	13.8	28.3	16.7	37.5	49.3	34.2	4.5	6.6	4.7	2.9	1.4	1.6
『暮らしにくい』	47	6.4	2.1	21.3	42.6	12.8	23.4	21.3	59.6	42.6	29.8	4.3	10.6	2.1	-	2.1	2.1
どちらともいえない	90	13.3	14.4	23.3	33.3	18.9	16.7	26.7	33.3	48.9	16.7	2.2	2.2	2.2	3.3	2.2	3.3

6. 子育てに関する意識調査について

1 子育てをしてよかったことや喜び

(1) 子育てをしてよかったことや喜びについて(若者:問23)

◆ よかったことや喜び「子どもの成長が喜びである」78.2%

子育てをしてよかったことや喜びを感じたことについては、「子どもの成長が喜びである」が 78.2%と最も多く、次いで「子どもとのふれあいが楽しい」が 51.8%となっています。

(%) 78.2 80 n=307 60 51.8 48.5 39.7 40 25.7 19.9 17.9 20 2.3 1.6 0.7 0.7 0.3 い子 び子 間子 間と子くで子がで子活で子 安家 そ 特 無 老 な家ど強夫ど がど でど 関ど 的にど に仕ど 後 心の の に □ る庭もく婦も 楽も あも 係も によも 張事も が で跡 な 答 がを 成りを のが なやが りやが るの しと 安 あ継 1.1 広 通 中いる家いが日い るぎ いの 長自育 成 心 がし あ々る が す分て がる で 長 族る ふ が るもる るのこ 明こ れ るて のこ き で ると 絆と 生と 人こ き あ

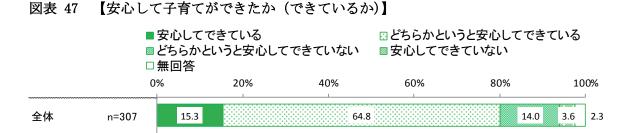
図表 46 【子育てをしてよかったこと・喜び】

2 安心の子育て環境

(1)安心して子育てができたか(できているか)(若者:問24)

◆ 子育て『安心してできている』80.1%

安心して子育てができたかについては、「どちらかというと安心してできている」が 64.8%と最も 多く、次いで「安心してできている」が 15.3%となっており、この 2 つの合計は、80.1%となっています。



3 子育ての悩みの相談等

(1)子育ての悩み相談・共有・改善する機会や場所、方法(若者:問26)(複数回答)

◆ 子育ての悩み相談等のためにあるとよいもの「家族、配偶者の協力」88.9%

子育ての悩み相談等のためにあるとよいものについては、「家族、配偶者の協力」が88.9%と最も多く、次いで「子育て支援センターの専門職による子育て支援相談」が32.2%、「学校や認定こども園等の先生による相談支援」が30.6%となっています。

性別でみると、男女とも「家族、配偶者の協力」が最も多くなっています。

年齢別でみると、「21 歳~30 歳」と「31 歳~40 歳」ともに「家族、配偶者の協力」が最も多くなっています。また、「近所の方の協力」は、「31 歳~40 歳」が「21 歳~30 歳」より 14.8 ポイント高く、「地域の育児サロン」は、「21 歳~30 歳」が「31 歳~40 歳」より 14.0 ポイント高くなっています。

転出入別でみると、いずれにおいても「家族、配偶者の協力」が最も多くなっています。

居住意向別でみると、いずれにおいても「家族、配偶者の協力」が最も多くなっています。また、「近所の方の協力」は、『住み続けたい』を選択した方で33.1%となっており、「学校や認定こども園等の先生による相談支援」と「子育て支援センターの専門職による子育て支援相談」はともに、『住み続けたくない』を選択した方で44.0%となっています。

暮らしやすさ別でみると、いずれにおいても「家族、配偶者の協力」が最も多くなっています。 また、「学校や認定こども園等の先生による相談支援」については、『暮らしにくい』を選択した方 が『暮らしやすい』を選択した方より 11.0 ポイント高くなっています。

図表 48 【子育ての悩み相談等のためにあるとよいもの(全体・性別・年齢・転出入・居住意向・暮らしやすさ別)】

(%)全 近 生学 職子 な地 ネ育 そ ッ児 に校 に育 ど域 域 所 親 ത 族 の よや よて \sim σ 同 の トに 他 る認 育 体 配 方 る支 に各 \pm な関 の 児 どす 偶 相定 子 援 よ種 の サ サ 者 協 談こ 育セ る委 のる 支ど の てン 相員 情本 援も 報や 協 相タ 談へ ク 1 談丨 支児 カ 園 ル 等 支の 援童 ン タ ഗ 援専 門 員 先 307 88.9 30.0 30.6 32.2 4.2 21.5 11.4 全体 19.9 3.3 男性 93 86.0 34.4 26.9 28.0 5.4 22.6 21.5 11.8 209 90.4 28.2 31.6 34.0 3.8 20.6 18.7 11.0 4.8 16歳~20歳 21歳~30歳 51 92.2 17.6 25.5 25.5 5.9 21.6 31.4 11.8 3.9 11.5 3.2 31歳~40歳 253 32.4 32.0 4.0 17.4 88.5 33.6 20.9 ずっと豊川市に居住している 80 90.0 31.3 28.8 25.0 2.5 23.8 18.8 13.8 1.3 Uターン 33.3 29.4 25.5 13.7 13.7 5.9 51 94.1 23.5 5.9 Iターン 174 86.8 28.2 31.6 38.5 4.6 19.0 21.8 9.8 3.4 『住み続けたい』 242 91.3 33.1 30.2 10.3 3.3 30.2 3.3 22.7 19.8 68.0 44.0 20.0 『住み続けたくない』 25 16.0 440 8.0 24.0 16.0 8.0 わからない 39 87.2 20.5 25.6 38.5 7.7 12.8 23.1 12.8 28.3 10.1 『暮らしやすい』 237 91.1 32.9 31.6 3.0 22.4 20.7 3.4 『暮らしにくい』 28.6 39.3 32.1 7.1 17.9 17.9 14.3 28 82.1 どちらともいえない 41 80.5 14.6 39.0 34.1 9.8 19.5 17.1 14.6 4.9

4 子育ての支援策

(1)子育ての支援策として市に求めるもの(若者:問27)(複数回答)

◆ 子育で支援策「子育で費用の軽減・支援」67.0%

市に求める子育て支援策は、「子育て費用の軽減、支援」が67.0%と最も多く、次いで「子育てと仕事の両立ができる仕組みづくり」が36.0%、「子どもの医療の充実」が31.1%となっています。

性別でみると、男女ともに「子育て費用の軽減、支援」が最も多くなっています。また、「子どもの医療の充実」については、「男性」が「女性」より 7.0 ポイント高くなっており、「子育てと仕事の両立ができる仕組みづくり」については、「女性」が「男性」より 8.9 ポイント高くなっています。

年齢別でみると、どの年代においても「子育て費用の軽減、支援」が最も多くなっています。また、「子どもの遊べる場所の確保」については、年齢が高くなるほど増加する傾向となっています。

転出入別でみると、いずれにおいても「子育て費用の軽減、支援」が最も多くなっています。また、「Uターン」の方については、「子どもの遊べる場所の確保」が34.9%、「Iターン」の方については、「子どもの医療の充実」が35.9%となっています。

居住意向別でみると、いずれにおいても「子育て費用の軽減、支援」が最も多くなっています。 また、「子育てと仕事の両立ができる仕組みづくり」については、『住み続けたい』を選択した方で 37.4%となっています。

暮らしやすさ別でみると、いずれにおいても「子育て費用の軽減、支援」が最も多くなっています。また、「子育てと仕事の両立ができる仕組みづくり」については、『暮らしにくい』を選択した方で38.3%となっています。「幼児教育、子どもの教育の充実」については、『暮らしにくい』を選択した方が『暮らしやすい』を選択した方より9.8ポイント高くなっています。

図表 49 【市に求める子育て支援策(全体・性別・年齢・転出入・居住意向・暮らしやすさ別)】

(%)

	全体(n)	子育て費用の軽減、支援	子どもの医療の充実	防犯体制の整備、強化	子どもの遊べる場所の確保	る仕組みづくり子育てと仕事の両立ができ	保育サー ビスの充実	る仕組みづくり 父親の子育て参加をすすめ	子どもへの虐待防止	非行の防止	子育て相談の充実	充実幼児教育、子どもの教育の	の充実親子で参加できるイベント	親子同士の交流の充実	その他	特にない	無回答
全体	655	67.0	31.1	23.8	29.2	36.0	27.9	8.7	6.7	8.1	7.8	7.6	8.5	3.8	1.7	1.8	2.3
男性	270	65.2	35.2	23.3	24.8	30.7	28.1	8.5	4.4	8.1	8.5	8.1	7.4	4.8	2.6	2.6	3.7
女性	376	68.1	28.2	24.2	32.7	39.6	27.7	8.5	8.5	7.7	7.4	7.4	9.3	3.2	1.1	1.3	1.3
16歳~20歳	86	64.0	23.3	20.9	18.6	32.6	18.6	11.6	10.5	10.5	4.7	5.8	5.8	4.7	1.2	4.7	5.8
21歳~30歳	213	69.0	32.4	18.3	24.4	37.6	33.8	8.9	8.0	7.5	11.3	7.5	9.4	2.3	1.4	1.4	2.8
31歳~40歳	353	66.6	32.6	27.8	34.6	36.3	26.3	7.9	5.1	7.9	6.5	8.2	8.2	4.5	2.0	1.4	1.1
ずっと豊川市に居住している	299	65.9	28.4	19.4	26.4	39.5	28.4	7.7	9.0	6.7	9.7	7.0	6.7	3.7	0.7	2.3	3.0
Uターン	106	68.9	28.3	30.2	34.9	23.6	26.4	12.3	4.7	12.3	5.7	6.6	12.3	4.7	2.8	1.9	2.8
Iターン	245	68.6	35.9	26.9	30.2	37.6	28.2	8.6	4.9	8.2	6.1	9.0	8.6	3.3	2.4	1.2	0.4
『住み続けたい』	494	68.0	30.0	23.9	29.6	37.4	28.1	9.5	6.9	8.1	8.1	7.5	9.9	4.5	2.0	1.2	1.8
『住み続けたくない』	59	66.1	33.9	20.3	33.9	28.8	30.5	8.5	5.1	8.5	5.1	13.6	3.4	3.4	1.7	5.1	1.7
わからない	98	64.3	34.7	26.5	24.5	34.7	25.5	4.1	7.1	8.2	8.2	5.1	5.1	1.0	-	3.1	3.1
『暮らしやすい』	515	66.8	29.7	25.2	30.1	36.1	28.0	9.5	7.4	8.7	8.2	7.2	8.9	4.3	1.9	1.2	1.7
『暮らしにくい』	47	68.1	31.9	21.3	29.8	38.3	25.5	6.4	2.1	8.5	8.5	17.0	6.4	6.4	2.1	-	-
どちらともいえない	90	68.9	40.0	17.8	23.3	35.6	28.9	5.6	5.6	4.4	5.6	5.6	7.8	-	-	6.7	4.4

7. その他・属性

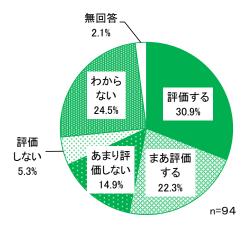
1 地方創生の評価について

(1) 地方創生の評価(地方に仕事をつくる)(事業所:問24)

◆ 地方創生の評価「評価する」が 30.9%

地方創生の「地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする」という動きの評価については、『評価する』(評価する、まあ評価するの合計)が53.2%、『評価しない』(評価しない、あまり評価しないの合計)が20.2%となっています。また、「わからない」が24.5%となっています。

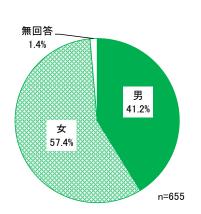
図表 50 【地方創生の評価について】

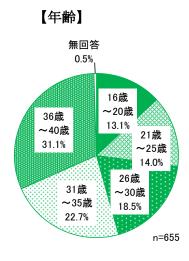


2 属性(若者調査)

◆ 性別・年齢

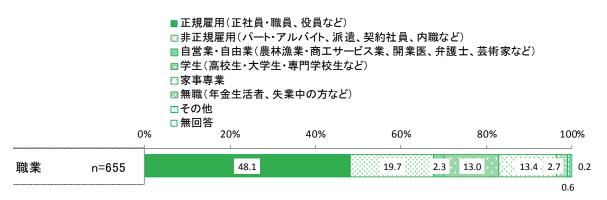
図表 51【性別】





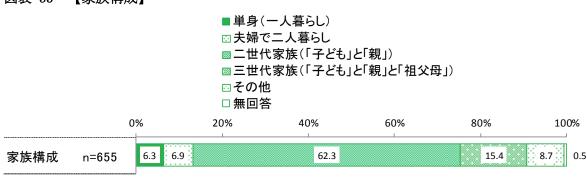
◆ 職業(雇用形態)

図表 52 【職業(雇用形態)】



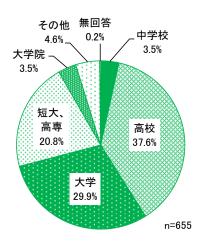
◆ 家族構成

図表 53 【家族構成】



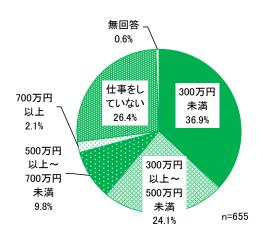
◆ 最後に卒業した学校

図表 54 【最後に卒業した学校】



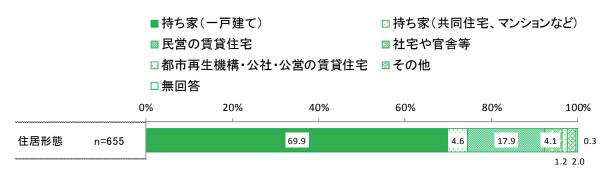
◆ 年収

図表 55 【年収】



◆ 住居形態

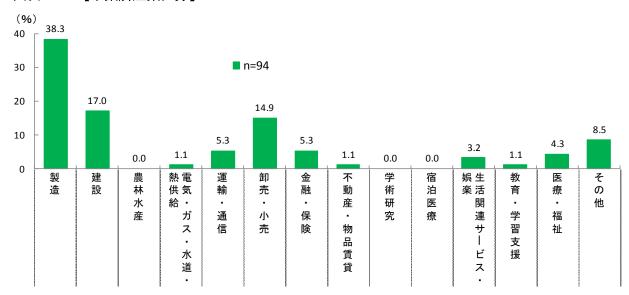
図表 56 【住居形態】



3 属性(事業所調査)

◆ 事業所産業区分

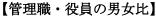
図表 57 【事業所産業区分】



全社員数、管理職・役員の男女比

【全社員数】

図表 58



20

10.6

12.8

40

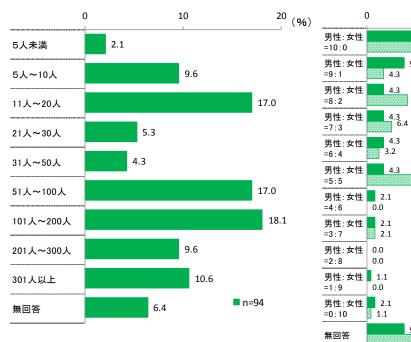
■管理職の男女比 n=94

■役員の男女比 n=94

45.7

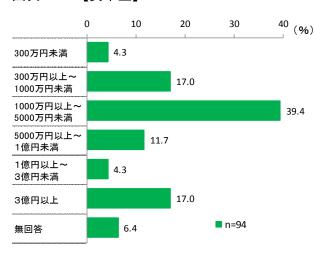
60 (%)

56.4

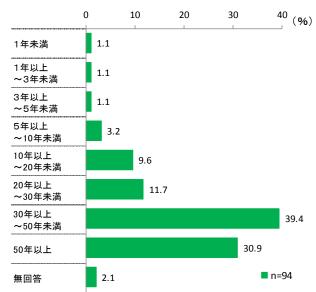


資本金、設立年数

図表 59 【資本金】



【設立年数】



豊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略 に係るアンケート調査 調査結果報告書

平成 27 年 8 月

発 行: 豊川市 企画部 企画政策課

〒442-8601 豊川市諏訪1丁目1番地

電話 0533-89-2126 FAX 0533-89-2125